

てんじん

連携ニュース

独立行政法人
国立病院機構 甲府病院
（〒358-8501 甲府市東区東町15-1-1）
発行責任者
院長 長沼博文

2006年7月1日発行
第7号

<http://www.hosp.go.jp/kofu/>



重症心身障害病棟 を紹介します

重症心身障害病棟部長 島山和男

皆さんは、一般病棟の北側に三階建ての重症心身障害病棟があるのをご存知でしょうか？まずは、「重症心身障害」という言葉からご存じない方が多いことと思います。重症心身障害とは、重度の身体障害と重度の知的障害を併せ持った障害ということです。具体的に言うと、重度の身体障害とは寝たきりであったり、ベッドに座ることのできるけれども歩くことはできないような障害を言います。また重度の知的障害とは、おしゃべりすることもできないか、または片言が話せる程度までの障害を指します。

皆さんの日々の医療や療育を受けながら過ごしていらっしゃる方は、全く寝たきりでおしゃべりすることもできない方です。しかし、その方々は療育を通じて、日々の生活からたくさん刺激を受け取り、それに対するわずかな反応を私たち治療者や療育者が感じ取る、という相互関係で徐々に外界との関わりを確実なものにしていきます。このように、この病棟は患者様にとって治療・療養の場であると同時に生活の場であるということが大きな特徴です。言い換えれば、生活の中に医療や療育があるとも言えます。もうひとつの特徴は、医師や

看護職ばかりでなく、そのほかの多くの職種の皆さんが患者様に関わっているということですね。例えば、お身体が不自由であれば訓練・リハビリテーションも必要でしょう。ですから、毎日理学療法士さんが訓練をしてくれます。また、毎日の生活に張りつめをもち、快適な療養生活を送れるように、療育指導室という部門があり、毎日の保育活動や毎月の誕生会、季節行事を開いて患者様にたくさん刺激を与えてくれます。学齢児であれば学校へ行かなければなりません。そこで、甲府養護学校から学校の先生がベッドサイドに訪問授業に来てくれます。その他に、この患者様は食事を



重症心身障害病棟

して物を飲み込むことが上手にできません。虫歯がでやすかったり、口腔内が汚れやすかったりします。そこで、定期的に歯医者さんが診察して治療をしてくれます。さらに、もうひとつ忘れてはならない方々がいます。それはボランティアの皆さんです。運動会や夏祭り、クリスマス会、成人式といった季節行事ばかりでなく、日々行われている社会見学（患者様が病院の外へ遊びに行く）の度に、たくさんボランティアさんが手助けしてくださっています。今や、こういったボランティアさんのお力がなければ楽しい行事も行えないくらいに、大きな力になっていただいております。そしてもうひとつ、重症心身障害病棟のキーワードと言えば、「ゆつくりリズム」でしょうか。障害を持った方々の発達や刺激に対する反応のスピードは、健常者と比べると非常にゆつくりとしていて、注意しないと見逃してしまいます。例えば朝、私達がベッドにいらつしやる患者様に「おはよう」と声をかけたとしても、その返事は通り過ぎる私達には聞こえてきません。それでは、患者さんは返事をしていないのでしょうか？いえ、してくれていますが、でもお身体が不自由なので、

その返事はすぐには返ってきません、私を通り過ぎてしまっただけです。しかも、その患者さんはしゃべるのが苦手でした。ですから、その患者さんは「おはよう！」と動かせる右足をベッドから10cmだけ上げたのでした。せつかちな私にはそれが判らなかつたのです。「ゆっくり」だから「じゅくり」と待つ。それがこの病棟ではとても大切なポイントなのです。

山宮町の「国立療養所西甲府



診療科案内

泌尿器科

泌尿器科医長 相川 雅美

泌尿器科は、腎臓、尿管、膀胱、前立腺、尿道などの尿路系と男性生殖器、副腎などの臓器を扱う診療科です。

最近のアンケートでは六〇歳以上の男女の約六〜七割が何らかの排尿症状を有しているという結果が出ました。本邦の高齢化率は世界でトップであり、ま

病院」から天神町に移って、もう少しで二年が経とうとしています。患者様は、皆さんと楽しく過ごしたいと思っただけで、いやいけません。でも、患者様は自分ひとりの力では皆さんに会いに行くことはできません。これをお読みの皆さん、ぜひ一度重症心身障害病棟にいらっしやってみませんか！患者さま共々、皆さんのお越しを楽しみにお待ちしております。では皆さん、お元気で。

よるものです。しかも年々その比率、実数とも着実に上昇しつつあります。医学が発展してもいまだに悪性腫瘍による死亡者が減らないのは、罹患率や発見率が上がっていることによるのも当然ですが、まだまだ予防や早期発見が遅れているのが実情だと思えます。

早期に発見出来た早期がんである場合は手術療法が中心となります。最近では患者さんの侵襲度がより少ない方法が選択される機会も多くなっています。泌尿器科領域でも体腔鏡下によるものやミニマム創による手術が積極的に施行されています。当科でも本年二月に本県では第二例目となるミニマム創尿管全摘術を山梨大学との協力で施行しました。

進行がんで発見された場合は、化学療法や放射線療法などを組み合わせた集学的治療で対応することとなります。進行性尿路上皮がんの治療ではMVAC療法という化学療法が非常に有効ですが、当科でも昨年来積極的に施行しています。また前立腺がんが最近罹患率、死亡率とも急速に増加している

ので注目を集めています。この前立腺がんも早期発見が大事ながんのひとつですが、幸い優秀な腫瘍マーカーであるPSAが早期発見には有用です。

五十歳を過ぎた男性は無症状でもPSAを測定することを勧めますが、大事な点は異常高値を指摘された場合、二次検査機関で専門医の診察を受けることです。診断には前立腺生検が必要ですが、多少侵襲のある検査ですから前立腺生検を施行する場合やしない場合のメリット、デメリットを年齢を考慮しながら泌尿器科専門医と話し合うということが大切です。

当科は前立腺がんの二次検査機関に指定されていますが、今挙げた点、つまり患者さんへの説明や対話を、最も重視して診療してまいりますので、PSA高値を指摘された方は是非一度受診してみてください。

最後に本年四月からは山梨大学泌尿器科医師の派遣が週一回あり、より大学との連携を強化し診療を進めることが可能となったのも特筆できる点として挙げておきたいと思えます。



職場紹介

外来治療棟紹介

看護師長 中田 寛子

外来治療棟の職員は、看護師・助産師・事務職員総勢二十八名おり、それぞれ診察室や処置室で患者様の援助や対応をおこなっております。外来治療棟はバートの職員が多いため、出勤・退勤時間がまちまちであり、スタッフが一番多い午前時間帯では二十五名が勤務していますが、十五時以降になる五、七名になり、まるで潮の干満のように一日の中でスタッフの数が増減しています。とくに十五時以降はスタッフが少ないため、点滴管理や予約変更の対応、救急患者様、検査の患者様の対応、診療が続いている科の援助、診療が終わった科の問い合わせへの対応など、忙しい時間になることがあります。

外来診療棟は一階と二階のフロアで構成されており、十一診療科の診察を行っております。一階は処置室を兼ねたスタッフ



外来ホール

ステーションを中心に内科、整形外科、消化器科、外科、神経科、脳神経外科の診察室と救急ホールがあります。二階はスタッフステーションと産婦人科、小児科、眼科、耳鼻科、泌尿器科の診察室があります。

各科に担当の看護師を配置し、

科の特徴に応じた援助を行っております。眼科では、白内障の目帰り手術を行っております。高齢の患者様が多いので、安全に安心して手術を受けられるように、手術前後の日常生活の注意などパンフレットを用いた説明を行っております。

産婦人科では、周産期医療センターの外来部門として、県内各所からハイリスク妊娠の患者様を積極的にうけいれております。また里帰り分娩希望の患者様に対しても柔軟に対応させていただいております。周辺地域の分娩施設の減少に伴い患者数が増加しており、待ち時間が長いという問題を抱えております。平成十八年五月より月曜日のみではありますが、診察を二診から三診に増やし待ち時間の短縮を図っております。産婦人科は助産師が保健指導を行い、妊娠中や産後の健康管理、不安に対する援助を行っております。

小児科では気管支炎など急性期疾患の患者様が多く来院されますが、川崎病、てんかんなど長期フォローアップが必要な患者様や健康な小児でも育児相談、健康相談に訪れるため、栄養相談や予防接種などに関する保健指導をおこな

っております。

外来治療棟は構造上一階と二階に分かれているため、複数の科の受診に加え診察前検査がある場合、患者様が戸惑ってしまうことがあります。そのため、科の担当看護師間で調整を図り、受診当日、受診順路を書いた紙を患者様にお渡しし、順路と場所を説明して迷わず検査、受診できるように援助しております。

当院では外来患者様を対象に、糖尿病教室を毎月開催し、医師、看護師、栄養士、検査技師、薬剤師が講師となり、患者様が糖尿病について理解を深め、自己管理が継続できるように援助に努めております。

患者様の中には、さまざまな問題を抱えたまま退院される場合があります。そのような患者様が地域に戻っても継続して看護支援が受けられよう継続看護窓口を設置し、保健所や施設など地域と連携をとり患者様の看護の継続を図っております。

外来治療棟は、患者様が治療を継続し、病気を自己管理していくための援助の場として、また地域と患者様の架け橋として日々患者様の看護を行っております。

外来診療担当表

平成18年7月1日現在		月	火	水	木	金
内科	1	渡邊	川口	渡邊	渡邊	渡邊
	2	黒澤	黒澤	黒澤	川口	黒澤
	3	川口	尾畑	高木	中尾	高木
	4	高崎	高崎		高崎	
	5					
脳神経外科	5		長沼			長沼
特殊外来 (午後3:00~)		高木		高崎		高崎
神経科			平野・塩江			
消化器科		河口	角田			河口
小児科	1	久富	稲見	久富	久富	稲見
	2	鳥村	田口	宗像	鳥村	田口
	3	鳥山	中根	中村	鳥山	神谷
	3	中村	鳥山	神谷		中根
外科		鈴木		角田	鈴木	角田
整形外科	1	萩野	原田	原田	萩野	萩野
	2	原田	落合	落合	落合	原田
泌尿器科		相川	川口	相川	相川	相川
産婦人科	1	深田	深田	高木	深田	深田
	2	伊東	高木	伊東	伊東	高木
	3					
眼科		古市	古市	古市	手術日	古市
耳鼻咽喉科					矢崎	

※乳児健診(小児科)

毎週 火・木曜日 (完全予約制)

※予防接種(小児科)

毎週 水曜日 (完全予約制)

※人間ドック

毎週 火曜日 (完全予約制)

※脳ドック

毎週 火・金曜日 (完全予約制)

※高齢者検診

毎週 木曜日 (完全予約制)

※結核検診

毎週 月・水・金 14時から16時

※毎月第4金曜日

黒澤医師 糖尿病教室

看護職員を募集します

当院では左記のとおり平成19年度採用の看護師、助産師の皆様を対象とした就職説明会を実施します。あなたの将来のキャリアUPにつながる情報が満載！是非御参加下さい。

【就職説明会】

【開催日時】

平成18年7月19日(水)、8月1日(火)、8月7日(月) / 13時30分~16時30分 (受付13時00分)

【開催場所】

国立病院機構甲府病院
4F大会議室

【募集要項】

①募集人員 / 看護師・助産師相当数
②採用年月日 / 平成19年4月1日
③応募資格 / 看護師・助産師の資格を有する方、平成19年3月に看護師及び助産師養成機関を卒業見込みの方
④採用試験日 / 第一回 平成18年8月22日(火)又は8月29日(火) / 第二回 10月13日(金) / 第三回目以降については応募状況により実施日を設定します
⑤採用試験内容 / 筆記試験及び面接試験

ご連絡先 / 独立行政法人国立病院機構

〒400-0292 甲府病院 看護部長室

TEL 0555-2253613(1)

FAX 0555-22515597